

韓日スピーチコンテスト2021

出場者インタビュー



太田 貴之さん
国際コミュニケーション学部国際教養学科3年

【スピーチテーマ】コロナ禍、韓国がより好きになった理由
【スピーチ内容要約】

韓国で生活して文化を肌で感じたいと思っていた私にはコロナ禍で留学を見送らざるを得なかったことはとても辛いものでした。大学では授業がオンラインになり、友人に直接会うことができなくなり、コロナウイルスがさまざまな自由を奪ったように感じました。

しかし、こんな閉塞感が漂う中でも、さまざまな媒体・デバイスを通じて韓国の芸能や映画・音楽鑑賞をして、意識的に韓国の文化やコンテンツに触れる時間を持つようにしたこと、もっと韓国文化について知りたい、と感じるようになり、今では字幕がなくても十分に楽しめるようになりました。

現在「日韓の若者文化の比較による文化的価値観の差異」という主題で、研究中です。「コロナのせい」ではなく、「コロナのおかげ」で多くの気付きがあり、韓国がより好きになりました。

Q. 韓日スピーチコンテストを知ったキッカケ・理由は何ですか？

コロナの影響で今年度予定していた韓国への交換留学が中止になってしまいましたが、授業で紹介され、自分の語学力を披露するよい機会と思い、参加を決めました。また、テーマにコロナ禍と関わる項目があったため、自身の経験を共有したいと思いました。今回が二度目の参加でしたが、昨年よりも自身の韓国語運用能力の成長を肌で感じたいと思った点もあります。



Q. スピーチの練習・本番で心がけたことを教えてください。

グローバルコンベンションホールという素晴らしい会場で披露できるので、完成度の高いスピーチにしようと思い、暗記するのではなく、伝えることを考えながら話すことができるよう一つ一つ言葉を丁寧に理解しながら練習しました。本番当日は緊張しましたが、笑顔でゆっくりわかりやすくスピーチすることを意識して、弁士としてうまく話すことよりも、自分の伝えたいことに集中し、自信を持って披露できるよう努めました。

Q. 今回のスピーチテーマを選択した理由を教えてください。

所属する学部・専攻での学びを深めるためには留学は必要不可欠だと思っていましたが、コロナ禍があったからこそ経験したことをお話しできるのではないかと、考えるに至りました。テーマ設定をするうえで、韓国の文化や多様なコンテンツが私たちに与える力や楽しさ、重要性などをスピーチで共有したいと思ったところが一番のポイントだと思っています。

Q. 内面的な成長や変化はありましたか？

他の出場者のスピーチを聞いて、多くの人がコロナで学生生活の影響を受けていると改めて知ることができました。「日韓の若者が同様にもどかしい思いている」と考えると、今できることを模索していかなければ、と身の引き締まる思いになりました。また、文化学を専攻する身としては、韓国の人々の日本文化の捉え方というものにも触れることができた貴重な機会だったな、と実感しています。